

感情を伝えやすいチャットアプリの作成

中村いぶき

2019年に、中国の武漢市で発生した新型コロナウイルスが世界で猛威を振るった。日本においても、新型コロナウイルスが蔓延し、緊急事態宣言が発令され外出制限を余儀なくされた。その為、LINEやInstagram、Twitter、Zoomなどのインターネットを利用した、非対面、非接触のコミュニケーションをする機会が増加した。

SNSは非対面であるため、文字だけでのコミュニケーションを行う際に、お互いの感情が伝達しにくい。コミュニケーションにおいて感情が伝わりにくい場合、受け取り方によっては相手にネガティブな感情を掻き立てる場合がある。

表情を見ることのできないSNSを使用する際のコミュニケーションでは細心の注意を払い、SNSリテラシーを身に着ける必要がある。

本作品では、インターネットを使用した非対面での会話をする際に、テキストの感情を分析し、感情を出力することで相手の感情を鮮明にし、対面に近いコミュニケーションを行えるDiscordを使用したボットとチャットアプリケーションを提案する。感情分析は、Googleが提供している感情分析を使用する。

試作した4つのボット及びアプリケーションを、東京に住んでいる大学生5名に評価してもらい、比較を行った。

比較テストを行った結果、チャットサーバーを利用したアプリケーション2が一番感情伝達に適しているという意見が多かった。メッセージの送信前に感情を評価することにより、感情のコントロールを促す効果があるのではないかと推測する。さらに、絵文字の色を濃くすることによって感情が強くなっているということが分かりやすかったという感想が多くあった。

本チャットアプリケーションは、絵文字の色に強弱をつけることによって、感情の強度を表現できるということが分かった。しかし、GCPの感情分析は文章の長さに影響される。SNSは、短い文章でコミュニケーションを行うことが多いため、GCPの感情分析は不向きであるということが発覚した。短い文章でも、感情を正確に判定できるAPIサービスを利用することで、利便性の向上が見込まれる。